大久保地区・地域だより
No.104 さわやかおおくぼ
写真募集しています よろしく！
2025年3月31日発行　編集・発行 大久保地域センター管理運営委員会広報部　☎03-3209-3961

過去から学ぶ
備えること　守ること　寄り添うこと

能登地震災害から１年以上過ぎましたが、未だに復興が進んでいないと聞いています。
大災害の恐ろしさを私たちは映像でしか感知していないのかもしれません。

世界を知る・世界を味わう講座～ネパール編～ ネパールの食文化に日本との共通点を見つけた そばがき で ネパールカレーを味わう！

令和７年２月２日(日)

講師：
グレン・ジワン・クマル
（ネパール料理店 ソルティカージャガル店主）

いろいろなスパイスを使ったカレーは薬膳のようで体が暖まりました。

Magical World（マジカルワールド） 日本とインドの舞踊体験!!

令和６年10月６日(日)

インド舞踊と日本舞踊の紹介、
基本のポーズや所作を学ぶワークショップ
みんなでパフォーマンス

講師：
日本舞踊　花柳栄暦（はなやぎ えいりゃく）
インド舞踊　Subhra Goswam（シェブラ・ゴスワミ）

手づくり味噌教室

令和６年11月26日(火)

味噌２キログラムの材料
・大豆　５００グラム
・米麹　５００グラム
・塩　　２５０グラム

講師：井上美那子
味噌は一年熟成して完成です。

琵琶がたり

令和７年１月19日(日)

～琵琶の音色と語りによる古の世界への誘い～

奏者：横井旭壽
演目：『羅生門』『茨木』
ナレーション：加藤登美子

心にしみた琵琶がたりは今年で最後になりました。
ありがとうございました。

行事予定

お待たせしました！

盆踊り教室	令和７年７月20日（日）
手打ちうどん教室	令和７年８月４日（月）
朗読会「怪談話」	令和７年８月24日（日）
多文化交流ワークショップ	令和７年９月 予定

※行事は変更になることがあります。

■ 編集後記

備えることは、地震だけではなく自分自身の備え（健康など）も大切だと思うさわやか編集委員一同です。
いつも“さわやかおおくぼ”をご愛読ありがとうございます。

問い合わせ　TEL ０３（３２０９）３９６１
大久保地域センター　FAX ０３（３２０９）３９６２

花の生け方教室

令和７年３月６日(木)

講師：井奈波素江（翠松会）

雪柳、菜の花、チューリップ、春を生けました。

多文化芸能まつり

キッズステージ

4F：多目的ホール
小学生の和太鼓・金管楽器演奏
子ども達の合唱やダンスなど
エンターテイメント

3F：和室
民族舞踊・民謡・詩吟など
日頃の練習の成果を披露する
多文化芸能まつり

西戸山トワラーズ

親子合唱団

もくれん会

大久保二丁目町会 百々寿会

こども民踊教室

秋はみんなの発表会
レッツゴー！大久保地域センター
11月 2024 16日（土曜日）

ウクレレ愛好会 カサブランカ

戸山小学校 和太鼓クラブ

民謡同友会

天神小学校 金管バンド

詩歌い隊

ベトナム勉強会

日本詩吟学院岳風会

大久保未来組

エベレスト・インターナショナルスクール

チョンエチン 韓国舞踊学院

ヨガ塾

アンサンブルシュマール

地域の幼稚園・保育園の園児たちが
描いたお絵かき作品を３階ロビーに展示しました
大久保第一保育園　百人町保育園　新栄保育園
大久保わかくさ子ども園　大久保幼稚園　ほっぺるランド新大久保

古典芸能サークル「緑」

地域の防災活動

それぞれの町会・自治会はいざという時のために防災訓練を、定期的に行っています。
以下の３ヶ所の活動を紹介します。

いざという時に備えて、炊き出し中

百人町三丁目町会

ポケットパークの前に何気なく置いてある腰掛け！
実は「災害時用かまどスツール」なんです。
普段は散歩の休憩に。いざ災害時には炊き出しができます。
毎年、訓練していますよ。
近くのふれあい公園には震災対策用応急給水施設があります。

みんなで防火水槽の水を確認

いぶき町会

いぶき町会では、毎年、消防署、消防団の応援を得て、小泉八雲記念公園にて防災訓練を行っている。必要な時にはいつでも使えるように、防災倉庫には防災用具・用品各種を備え、確認は防災部及び婦人部がおこなっている。昨年も１２月に７０名の参加を得て応急救護やポンプの操作などそれぞれ体験した。町会内にあるグループホームや外国人居住者の参加もあり、温かい豚汁を食べながら地域の人々と必要な交流ができた。いざという時はお互いに声を掛け合い、支え合って災害に備えたい。

西戸山タワーホウムズ自治会

超高層マンション３棟からなる規模の大きいこと、敷地の大部分が近隣住民の避難場所ともなっているので、防災活動には力を入れている。居住者対象の防災訓練を毎年１回行っており、居住者の安否確認を最優先するための確認シートを使って細やかに準備している。

訓練は消防署や関係者の協力を得て、初期消火、けむり体験、屋内消火栓・非常用蛇口の組み立て等盛りだくさんで、特にはしご車が人気である。多くの人に参加してほしいので、お菓子などの景品を付けたスタンプラリーも行っている。また災害時の情報伝達にも取り組んでいて、停電の場合でもトランシーバーで防災隊と連絡が取り合えるようになっている。

防災隊組織の特徴は、管理組合、自治会の役員、およびボランティアの三者からなっていることで、毎月一般のボランティアも参加して防災会議を開催、平常時の啓発活動などを行っている。

消防士さんのお話を聞く子ども達

新大久保商店街の取組

新大久保商店街振興組合のインターナショナル事業者交流会では、外国人店主へ５か国語で記した『新大久保避難所への地図』を配付しています。広域避難所と帰宅困難者一時滞在施設をマークで示して、どこにあるか一目でわかるマップは、大久保通りの店内外で見ることができます。

イスラム通りの店の入口

日本語学校の留学生に向けた施設案内では、災害時の助け合いの精神を表す日本語「おたがいさま」を覚えてもらい、いざというときの協力をお願いしています。

日本語学校の防災まちあるき

３０年以内に起こるかもしれない巨大地震。それは明日かもしれない・・・毎日恐れながら不安な気持ちで暮らすことは大きなストレスです。しかし、その時の為に確かな情報と共に準備することは自分自身を守ることに繋がります。大事なことは「その時」具体的にどう行動するか、自分ごととして改めて考えてみませんか！

今からでもできる あんなこと こんなこと

トイレはどうしても必要と思って、災害時用トイレ、買っちゃいました。
普段は小さくたたんで、
使う時は簡単に組立てられます。

自宅のトイレが使えなくても、黒いビニール袋とペットのトイレシートや猫の砂を用意しておくと利用できますよ。

避難する時は
ブレーカーを落としましょう。

缶詰を備蓄に

サバ缶はそのまま食べても、味噌汁やカレーに入れても美味しいです。ツナ缶などその他の缶詰も様々な料理に利用できますし、ランプにもなります。賞味期限の長い缶詰はいつもキッチンに収納しておけば食べながら立派な備蓄食品になります。

飲み物はそれぞれ好きなものも、好きなお菓子やチョコレートもあるといいな。

私のフェーズフリー

私は特別な防災用品の備蓄をしていません。いざという時の為に、備蓄は確かに大切なことですが、置き場所の問題や、常に消費期限を気にしなければなりません。

買い置きの水やトイレットペーパーを使ったら一個だけ余分に買い足す、食料品も同様にしています。それを　ローリングストック　と言うそうです“備えない防災”　として実践しています。

災害時の地域センターの役割

震度５弱以上の地震が起きたら、大久保地域センターは『帰宅困難者一時滞在施設』を開設して必要な活動を行うよう区から指定を受けています。大きな災害で電車やバスが動かず、家に帰れなくなった人々へ居場所を提供するのです。

出張所入口に案内看板

施設全体の受入見込人数は２５５人で、人数分の水とビスケット、アルミブランケットを備蓄しています。

大久保地域センターの場合、大久保通りから最も近い帰宅困難者一時滞在施設であり、外国人観光客も多数訪れると予想できます。そのため、年１回実施する開設訓練において、案内の多言語化や音声翻訳アプリの活用等のブラッシュアップを毎回行っているのです。

大久保風土記

大正時代 岡本綺堂の見た大久保

関東大震災で自宅を失い、翌年の大正 13 年３月に大久保百人町に移ってきたのが、「半七捕物帳」の作者・岡本綺堂です。戸山ヶ原の陸軍科学研究所つまり今の山手メディカルセンターの目の前の借家でした。百坪もの庭ではトウモロコシを育て、夕顔棚も作り、玄関脇には大きな桜があったといいますが、一方で、「陸軍の射的場のひびきも随分騒がしかった。戸山ヶ原で夜間演習の時は、小銃を乱射するにも驚かされた。」（「郊外生活の一年」）と書き残しています。

岡本綺堂の家のあたり

大久保キネマのあった場所

「岡本綺堂日記」（青蛙房）をひもといてみましょう。

「理髪店の前には大久保キネマという活動写真館が新しくできることになって、しきりに工事を急ひでいる。」（大正 13 年 11 月 14 日）とあります。新大久保駅のお隣に作られた「大久保キネマ」は、二十年後の昭和 19 年、「建物疎開」で取り壊されてしまいました。

山手線沿いにあった明治製菓の工場で大きな火災が発生したことがあります。真夜中、「おどろき醒めて北の窓をあけて見ると、明治製菓会社の大建物が一面の火になってゐる。」（大正 14 年４月 29 日）蒸気機関車の煙突から出た火の粉が、工場敷地内の枯れ草に引火したのが原因でした。

震災から一年が過ぎて、大久保の街の様子も変わってきます。

「新築の家が日ましに殖えてくるのが眼についた。」（大正 13 年 10 月９日）

「百人町の表通りにはだんだんに商店が殖えていくやうである。ここらもやがては郊外の気分を失ふやうになるかも知れない。」（大正 13 年 11 月 11 日）

その後、旧宅に近い麹町に借家を見つけた綺堂は、大正 14 年６月に大久保を離れます。
綺堂が大久保に暮らしたのは、一年三ヶ月ほどでした。

大久保風土記

関東大震災の時、私たちの街はどんな被害に襲われたか調べてみました。

新宿は震度５弱、４３０人余りの死者がありました。

江戸期に埋め立てられた下町と古代から推積した武蔵野丘陵とは揺れ方の違いはありますが、牛込、四谷、神楽坂などおもに東南地区で家屋の倒壊や火災などの被害がありました。新宿御苑には被災者のためのテント村ができたそうです。それでは大久保はどうであったか、調べた限りでは納屋の屋根が傾いた程度のことしか伝わっていません。当事大久保に住んでいた前田夕暮がこのようなことを書いています。「震災の日は庭の雑草の中で鳥かごに紙を貼って提灯を作り、ろうそくを点けて子ども達と寝た。その時の楽しさ、心地よさは今でも反芻している（羊歯素描　略）」。のどかなものです。

大久保には多くの避難者が訪れたと言います。距離感にして１時間足らずの下町では７万人もの死者を出したというのに今の感覚では信じられないことです。